

---

# 空手部の日常

ニッペマン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

空手部の日常

### 【Nコード】

N2157BA

### 【作者名】

ニッペマン

### 【あらすじ】

空手部シリーズとは、「Babylon Stage 27」『誘惑のラビリンス』第三章『空手部・性の裏技』に登場する、空手部トリオの日常を描いた作品である。

## ラーメンを食べに行くの巻（前書き）

大先輩でも分かる、名前の読み方講座。T D K R（田所）、M U R（三浦）、K M R（木村）、???（特別ゲスト）

## ラーメンを食べに行くの巻

チャイムくん「キンコンカンコン！（逼真）」

### 学校屋上

TDKR「MURさん夜中腹減らないすか？」

MUR「減らねーな」

TDKR「じゃけん、夜ラーメン食いにいきましようね」

### 道中

TDKR「ぬわあああんもうつかれたもおおん」

MUR「ちかれた・・・（小声）」

KMR「まだ30mしか歩いてませんよ」

MUR「ラーメン屋までどのくらいかかるんだ？」

TDKR「3時間くらい（適当）」

MUR「おつ、そうか」

### 数分後

MUR「おいTDKRオ！全然つかないじゃねーか（憤怒）」

TDKR「あれーおつかしいな」

KMR「先輩、もしかして道に迷ったんですか？」

TDKR「ま、多少はね？」

### 数分後

MUR「もうすつげーつかれたゾ」

KMR「諦めて帰りましようよ」

TDKR「なんだよ2人ともだらしねえな」

MUR「KMR・・・（マジギレ）」

MUR「おいKMRア、羽交い絞めにしろ」

KMR「はい」

???「（なにやってんだあいつら？）俺も仲間にいれ」

キキー！ドンツ！（迫真）

???「誰か轢いちゃったよ、やべえやべえよどうする・・・？」

TDKR「えっ？えっ？MURさ、MURさん勘弁してくださいよ」

MUR「じゃあ（腹に）ぶち込んでやるぜ」（震え声）

TDKR「ンアッー！」

TDKRはMURにボコボコにされて終了

## メダリンクをするの巻

TDKR「うちさあ、メダリンクあるんだけどやってかない？」

MUR「やりてーなー」

TDKR「じゃけん、後で家に寄りましようね」

野獣邸

TDKR「あがつて、どうぞ」

MUR KMR「お邪魔しまーす」

TDKR「飲み物持ってくるから、適当に座ってまってて」

KMR「はい」

MUR「おっ、ベットの下にエロ本あったゾ」

KMR「MURさん勝手にイジっちゃまずいですよ」

MUR「そうだな（素直）」

TDKR「おまたせ！麦茶しかなかったけどいいかな」

KMR「いただきます」

TDKR「それじゃはじめよっか」

メダリンク接続

KMR「先輩達のメダロットってどんなのですか？」

MUR「ポッチャマ」

TDKR「射撃タイプウ（大嘘）」

KMR「それじゃあ僕はサポート型にしますね」

TDKR「じゃあさ、ちよっと相手検索するから」

MUR「おっ、見つかったみたいだな」

KMR「相手はTDN DB HTNって人達ですね」

TDKR「犬型とホツケ型と幽霊型か！これもう勝てるかわかんねえな」

ロボット開始

MUR「よしぶち込んでやるぜ」ねらいうち攻撃 レーザー>

>>HTN「ウィヒ！」回避

TDKR「ほらいくど」がむしやら攻撃 ソード>>>TDN「アッー！」右腕破壊 脚部に貫通

KMR「MURさん、いきなりレーザーは当たりませんよ」索敵行動 レーダー

TDN「オッフ！」選択したパーツは破壊されている

DB「ヴォー」うつ攻撃 ライフル>>>TDKR「ファッ!？」クリティカル 頭部破壊 機能停止

HTN「ウィーヒ！」隠蔽行動 ステルス

MUR「ちかれた・・・」ねらいうち攻撃 レーザー>>>TDN「アッアッ・・・」脚部破壊 頭部に貫通 頭部破壊 機能停止

ロボット終了

MUR「楽しかったゾ」(ご満悦)「

KMR「先輩をリーダー機にしなくてよかったですね」

TDKR「あつ、KMRさ、俺がパーツ手に入れた時チラチラみてたよな？欲しけりややるよ」

KMR「ありがとうございます」

三人は立教トリオに勝利して終了

## 釣りをするの巻

チャイムくん「キンコンカンコン（迫真）」

12:00 学校屋上

TDKR「フー つかれましたね」

MUR「腹減ったな」

KMR「昼食にしましょう」

MUR「KMRア！今日はなんだ？」

KMR「おにぎり三種とウィンナーと玉子焼きですよ」

TDKR「おっ、うまそうじゃーん。1個いただき」

KMR「先輩、行儀悪いですよ」

TDKR「硬いこというなよ」（モグモグ）

「そんなこんなでご飯を食べ始める3人」

KMR「MURさん、さっきからなに見てるんですか？」

MUR「ん？これか、道に落ちてたんだよ」

「そう言って一冊の雑誌をKMRに差し出す」

KMR「月間、釣りロマン爺ですか」

MUR「そうだよ、おれも釣りしてえな」

KMR「僕も釣りの事ないんで、興味ありますね」

TDKR「うちにい、釣り道具あるんすけど、夜いきます？」

MUR「おっ！いきてえな」

TDKR「じゃけん、後でいきましょうね」

20:00 釣り場

MUR「暗いな、おいKMRア！足元に気をつけるよ（アドバイス）」

KMR「はい」

TDKR「竿が2本しかなかったけどいいかな？」

KMR「僕は魚アレルギーなので（大嘘）、MURさんどうぞ」



MUR「おつ、そうか？よし釣ってやるぜ」

「釣りを始めてしばらく沈黙する3人、すると遠くで争うような声が聞こえてくる」

「???」「やだ！やだ！小生やだ！ライダー助けて！」

「???」「誰が大声出していいつつたコラア！！飛び込めよ早くオラア！（腹ライダーキック）」

ザッバーン！（迫真）

「???」「溺れる！溺れる！」

MUR「おつ、引いてるゾ」

KMR「わあ、MURさん、がんばってください」

MUR「これは大物だゾ」

ザッバーン！（迫真）

KMR「針が引つかかってただけでしたね」

MUR「ポツチャマ・・・」

「落ち込むMURを尻目に、今度はTDKRに引きが」

TDKR「あーいいいいいいいいいいよ。大物きてる、はつきりわかなだね」

KMR「MURさん、落ち込んでる場合じゃないですよ。かなりの大物みたいです！」

MUR「おつ！TDKRオ、がんばれよ」

TDKR「（魚）暴れんな！暴れんなよ！」

TDKR「引きスギイ！（竿が）イクイクイク！ンアッー！！」

ザッバーン！（迫真）

「???」「ゲホッ！ゲホッ！オエッ！オエッ！ハッハッハッ・・・（過呼吸）」

TDKR「デデドン！（驚愕）」

KMR「小学生・・・？、にしては老けてますね」

MUR「海坊主が釣れたな」（ご満悦）」

3人は人命救助して終了

## バイトするの巻 ファミレス編

### 学校屋上

KMR「TDKR先輩、また遅刻ですね」

MUR「そうだな」

KMR「予想だと、そろそろ来る頃だと思います」

「KMRの予想通り到着するTDKR」

TDKR「また遅刻しちゃいましたよ」

KMR「これで893日連続遅刻ですね」

MUR「遅刻大会があれば、優勝だな」

TDKR「ところでMURさん、金欲しくないですか？」

MUR「ほしいな」

TDKR「ですよ、いいバイトあるんだけど、いかない？」

KMR「ホモビ男優とかじゃないですよ？」

TDKR「ち、ちがうよ、KMRのバカ！、あれだよ、あの、そう  
だ、ファミレスのバイト」

KMR「ファミレスですか・・・」

MUR「簡単そうだな、やるか」

TDKR「じゃけん、店長に連絡しとくんで、後でいきましょうね  
」

### ファミレス

TDKR「この2人が連絡しといたMURさんとKMRです」

MUR「KMR「よろしくお願いします」

店長「おう、よくきたな、早速着替えるんだよ、早くしろよ」

### 更衣室

KMR「僕達はなんの仕事するんですかね？」

TDKR「KMRが厨房で、MURさんがロビーで接客」

MUR「お、そうか」

KMR「厨房ですか・・・。料理覚えといてよかった」

TDKR「そいじゃ2人ともがんばってね」

「そう告げると去っていくTDKR」

KMR「TDKR先輩どこいったんですかね？」

MUR「さあな、仕事するぞ」

「それぞれが持ち場に就く」

### 厨房

おじさん「なにトロトロやってんだオラア！（もぐもぐ）」

KMR「は、はい！すいません」

おじさん「オラア！もっとスピード上げろ！（ゴクゴク）」

KMR「は、はい！すいません」

店員Y「おい！お前なにやってんだ！」

KMR「えっ？えっ？」

おじさん「やべ（全力逃走）」

店員Y「またあのおじさんかぁ・・・壊れるなあ」

KMR「今のおじさん、従業員じゃないんですか？」

店員Y「彼ね、よく忍び込んで勝手に飲み食いしてんだよ」

KMR「えっ、それは（ドン引き）」

その頃ロビーのMURは

店員K「それじゃ、手本見せるから」

MUR「おう」

店員K「お客様、ご注文はお決まりでしょうか？」

客「ぼくひで」

店員K「かしこまり！」

店員K「次は君がやってみよっか」

MUR「おう」

MUR「お客様、ご注文はお決まりでしょうか？」

客「ねねね、なんかオススメってある？」

MUR「ライス」

客「じゃあ、スープカレーで」

MUR「かしこまり！」

「注文を厨房のKMRに伝える」

MUR「KMRア！スープカレー1人前」

KMR「はい、よろこんで！」

「仕事を順調に終えた2人は給料を受け取りに行く」

店長「おう、2人ともご苦労さん、帰っていいぞ」

KMR「ちよつと待ってくださいよ！給料は？」

MUR「そうだよ（便乗）」

店長「なに言つてんだ？給料ならハゲた奴に渡しておいたぞ」

KMR「あのハゲステロイダー、ハメやがったな・・・クソツタレ  
！（マジギレ）」

MUR「これはゆるせねえな、そうだろKMRア？」

KMR「ああ、ぶち殺してやる」

野獣邸に乗り込む2人

インターホンくん「ピンポン！（迫真）」

YJ妹「はい、どちらさま？」

KMR「KMRです、お兄さん帰ってきてる？」

YJ妹「うん、部屋でゲームやってるよ。入って、どうぞ」

「家にあがり、TDKRの部屋に向かう2人」

MUR「デデドン！（ノック音）」

TDKR「うえーい」

「扉を開けてTDKRが顔を出した途端、MURの正拳突きが顔面に炸裂する」

TDKR「ンアッー！！（悶絶）」

MUR「おう、TDKRO！給料貰いにきたゾ！」

TDKR「もう使っちゃいましたよ（半笑い）」

KMR「ふざけんじゃねえぞ、オラア！（腹5連釘パンチ）」

TDKR「ンアッ！ンアッ！ンアッ！ンアッ！ンアッー！！！」

（気絶）「

MUR「オラオラ、おねんねするには早いゾ（顔パン）」

TDKR「ぬわあああん勘弁してくださいよおおおん」

YJ妹「おらおらしねしねー！（金玉パン）」

TDKR「ファッ！？（絶命）」

どさくさに紛れて参加するYJ妹

KMR「容赦ないな・・・」

MUR「ポツチャマ・・・（恐怖）」

YJ妹「ついやっちゃったけど、ま、いいよね」

TDKRは妹にトドメをさされて終了

## デパートへ行くの巻

チャイムくん「キンコンカンコン！（迫真）」

12:00 学校屋上

TDKR「ぬわあああんつかれたもおおん」

KMR「はいはい」

MUR「おう、昼飯食おうぜ」

TDKR「プシュッ！ゴクッゴクッ！プハッ」

KMR「先輩、学校にビールもってこないでくださいよ」

TDKR「堅いこというなよ」（ゴクゴク）」

MUR「おい、KMRア！（唐突）今日の弁当はなんだ？」

KMR「MURさんの好きな、から揚げです」

MUR「いいゾこれ（ご満悦）」

TDKR「から揚げとビール合いスギイ！」

KMR「外で飲み食いするつてのがまたいいですよね」

MUR「KMRもわかってきたじゃねえか」

TDKR「あ、そうだ（唐突）帰りに育毛剤買いに行くんだけど、2人もこない？」

KMR「特に予定もないですし、いいですよ」

MUR「そうだな（便乗）」

TDKR「じゃけん、帰り寄りましょうね」

19:00 デパート

KMR「育毛剤は医薬品コーナーですかね」

MUR「ついでにガムも買つてくか」

「医薬品コーナーでガムと育毛剤を購入する」

KMR「そうだ、今日はジャンプの発売日ですよ」

MUR「おっ、忘れてたな」

KMR「本屋寄ってきましょうよ」

「本屋に到着して、しばらく立ち読みをする3人」

KMR「そろそろ、お腹空きましたね」

MUR「そうだな」

TDKR「あ、MURさん、なんかあ地下にい、タダで飯が食える所があるらしいですよ」

MUR「タダで食えるのか？ならいきてえな」

TDKR「じゃけん、いきましようね」

19:30 デパ地下

TDKR「ここ」

KMR「さすがに活気がありますね」

MUR「おまえら、こっちきてみる！ウィンナー食い放題だぞ」

TDKR「MURさん！こっちにはビールありますよ」

MUR「デパ地下にはなんでもあるな」

KMR「2人共、その辺にしていたほうが・・・」

TDKR「なにいつてんだよKMR、お前も食うんだよ」

「KMRも試食コーナーを食い荒らし始める」

「??」「お客さん、そろそろ買ってください、オナシヤス！」

TDKR「まだ味がよくわからないんだよね、もうちょっと飲ませて」

「??」「食ってばっかないで買えよオラァ！」

MUR「お兄さん、これすっげーうまいぞ」

「??」「お兄さん？君なかなか見所あるね」（ご満悦）もっと食べていいよ」

KMR「これ美味しいな・・・。店員さん、これいくらです？」

「??」「30本（一袋）で5万！」

KMR「ご、5万！？（ブリュリュ！ビチュバチュ！）」

「驚きのあまり、スープカリーを量産するKMR」

KMR「ああ・・・。ト、トイレ・・・」

「トイレに向かうKMR。そこへ戻ってくる2人」

MUR「あれ？KMRどこいった？」



TDKR「店員さん、KMR知らない？」

???「KMRって人かわかんないけど、ワッツってトイレに向かつてった人ならいたね」

MUR「一応トイレいつてみるか」

TDKR「ちょうど、おしっこしたかったんすよ」

「トイレへ」

MUR「おいKMRア！いるか？」

TDKR「先輩そっち女子トイレっすよ」

MUR「お、そうだな」

TDKR「俺が中見てくるんで、MURさん、適当にフラフラしててくださいよ」

MUR「おう、まかせたぞ」

21:00 男子トイレ内

TDKR「KMRア！いたら返事しろー、いないな（ジョロロロロロロ）」

KMR「せ、先輩！良いところにきてくれました」

TDKR「お、どうしたー？（ジョロロロロロロ）」

KMR「紙がないんで持ってきてもらえますか？」

TDKR「どうすっかなー（ジョロロロロロロ）」

KMR「先輩！お願いしますよ」

TDKR「しょうがねえな、ちよつとまってて（ジョロロロロロロロ）」

「小便を済ませ外にでる」

TDKR「さーて、なにするんだったかな（ド忘れ）」

TDKR「そうだ、MURさん探さなきゃ」

「探索する事1時間」

22:00 ペットコーナー

TDKR「MURさん、こんなとこにいたんすか」

MUR「お、TDKRオ、お前も見てみるよ、かわいいゾ」

TDKR「なんかもう疲れちゃったし、そろそろ帰りましょよ」

MUR「そうだな、そうするか」

22:10 デパート前

TDKR「いやー、今日はいいい買い物しましたね」

MUR「タダで飯も食えたしな」

TDKR「そいじゃ、MURさんまた明日」

MUR「おう、気をつけて帰れよ」

（同時刻）

KMR「おーい・・・」

KMRはトイレで孤立して終了

## 聖夜の裏技

12月24日

TDKR「MURさん、夜中、海いきたくないですか？」

MUR「いきたくねーな」

TDKR「じゃけん、明日いきましようね」

KMR「明日は用事があるので、僕は遠慮します」

MUR「俺も明日はいけないな（便乗）」

TDKR「デデドン！（絶望）」

翌日 ある屋台

TDKR「おやじ、ビール！ビール！」

糞親父「クリスマスだったのに、あんちゃん1人か？」

TDKR「皆予定があると言ってたよお グビッグビッ」

糞親父「そんじゃ、後ろにいる2人はどちらさんだ？」

TDKR「ヌッ？」

「そつと振り返る」

MUR KMR「メリークリスマス！」

TDKR「ファッ！」

「驚いて口から色々飛び出す」

KMR「先輩、汚いっす」

MUR「おやじ、俺にもビール！」

糞親父「あいよ」

TDKR「2人とも予定があつたんじゃ？」

KMR「日にちを間違えてました」

MUR「俺もそんなところだ（便乗）」

「日本酒が運ばれてくる」

MUR「ん？おやじ！頼んだのはビールだぞ！」

糞親父「そいつぁワシのおごりだ」

MUR「おっ、そうかー（ご満悦）今日はとことん飲むぞ」

KMR「僕も付き合いますよ」

TDKR「アオン！オオン！（号泣）」

3人は朝まで飲み明かして終了

## 聖夜の裏技（後書き）

先輩！これ去年のクリスマスネタですよ！

## 昼食を買いに行くの巻

授業中

TDKR「先輩！この辺にい、コンビニあるんですけど、後で昼食  
買いに行きませんか？」

MUR「いきなーな」

TDKR「じゃけん、昼買いにいきましょうね」

授業が終わり、教室から出て行く三人。

TDKR「ぬわあああん授業つかれたもおおおん」

KMR「先輩寝ただけじゃないすか」

MUR「そうだよ（便乗）」

TDKR「そんなことより飯買いにいかないとな、ほらいくぞ」

TDKRの案内でコンビニへと向かった。

TDKR「ここ」

SNJ「いらつしゃいませ」（マジキチスマイル）

TDKR「喉乾いた・・・喉渴かない？」

KMR「別に」

TDKR「アイステイーなかったけどいいかな？」

MUR「ビックリマンチョコ、いいゾ」これ」

KMR「僕はスープカリーにしよう」

TDKR「どうすっかな俺もな」（優柔不断）

SNJ「（なにやってんだあいつら・・・？）」

買い物を終えた三人はコンビニを出ていく。

TDKR「学校にさあ屋上あるんだけど、そこで食べない？」  
MUR「おっ、いいな」

## 屋上

TDKR「やっぱり外で食べる飯はうまいっすね」

KMR「そういえば、先輩達お金払いましたか？」

MUR「なんのこったよ（すつとぼけ）」

TDKR「あ、お前さ、KMRさ、さっき俺らが買い物してる時呼んでもこなかったよな？」

TDKR「お前の分も適当に選んでおいたから」

KMR「ありがとうございます」

三人は仲良く昼飯を食べて終了

## 水族館に行くの巻

MUR「おい、KMRア！（唐突）水族館に行くゾ」

KMR「どうしたんですか、急に？」

TDKR「これこれ」

「手に持っていた雑誌をKMRに見せる」

KMR「へえ、この辺りに水族館がオープンするんですね」

MUR「ペンギンがいるんだゾ」

TDKR「もちろん、お前もくるよな？」

KMR「わかりました」

MUR「明日の11時に水族館に集合だゾ」

11:20 水族館前

MUR「TDKRの奴遅いな、もう20分も過ぎてるぞ（憤怒）」

KMR「そうですね・・・、先に入って見てみましょうか」

MUR「そうすっか」

「そう言つて、入館する2人」

MUR「KMRア！、見てみるよ、海草がいっぱいだよ！」

KMR「MURさん、魚見てくださいよ」

MUR「こつちにはカニがいるゾ、うまそうだな」

「しばらく進むと、遅刻していたはずのTDKRを見つける」

KMR「あ！TDKR先輩！」

「その声に気づいたTDKRがこちらに向かってくる」

TDKR「2人とも、遅いつすよ、」

MUR「遅刻したのはお前だろ（憤怒）」

TDKR「なにいつてんすか、中で待ってても2人共こないから、

一通り見て回っちゃいましたよ」

MUR「おつ、そうか（納得）」

「TDKRを加えた一行は再び館内を回り始める」

14:30 水族館内



MUR「ちかれた・・・（小声）」

KMR「MURさん、ちょっと休憩しましょうよ」

MUR「そうだな」

KMR「どこか休憩できる場所ありますかね」

TDKR「そういえば、あの辺にい、ラーメン屋ありましたよ」

KMR「先輩、案内してくださいよ」

「レストランへ向かう一行」

TDKR「ここ」

MUR「ふう、ようやく一息つけるゾ」

KMR「結構歩きましたもんね」

???「お客さん、ご注文は？」

MUR「どろり濃厚とんこつラーメンとビール」

KMR「僕はカレーラーメンとウーロン茶で」

TDKR「どうすつかな俺もな」（優柔不断）

「10分後」

MUR「おい、TDKRO!、はやく決めろよ」

TDKR「わかりましたよー、じゃあデデ井とアイステイーで」

???「かしこまり！」

KMR「（デデ井ってなんだよ・・・）」

TDKR「あ、そうだ、MURさん！入り口ら辺に記念メダル作る機械ありましたよ」

MUR「いいなーソレ」

TDKR「じゃけん、飯食ったらいきましようね」

「注文した料理が運ばれてくる」

MUR「うまそー」

KMR「いただきます」

TDKR「なんだこの料理！（絶望）」

MUR「お兄さん、うまいゾーこれ」

???「ありがとナス！」

「全員が食事を終えて」

MUR「よし、そろそろいくか」

KMR「メダル作りにいくんでしたよね、先輩、案内おねがいします」

「メダルを作りに向かう一行」

TDKR「ここ」

MUR「どうなってんだこれ？KMR、まかせた」

KMR「はい、・・・なにか数字を入力しないといけないみたいですね」

TDKR「適当に114514でいいって」

KMR「わかりました、ピピピッ！、・・・できましたよ」

MUR「お、首からさげてみると、なんか優勝した気分だな（ご満悦）」

TDKR「MURさん似合ってますよ（意味深）」

「すると館内に神の声が響き渡る」

アナウンス君「そろそろ閉館するんで、ワーって用事すませてパッと出てってオワリ！」

KMR「もうそんな時間なんですね」

MUR「あつという間だったな」

KMR「お土産買って帰りましょうか」

19:30 水族館前

MUR「今日は楽しかったゾ（ご満悦）」

KMR「たまにはこういう所も良いですね」

TDKR「なんか腹減ったなあ、これから寿司食いにいきませんか？」

MUR「よし、行くか」

KMR「先輩達がおごってくださいよ（半笑い）」

TDKR「しょうがねえな、ほらいくぞ」

MURは目的を忘れて、寿司を食べに行き終了

## 遠足に行くの巻

TDKR「MURさん、なんか外で飯食いたくないすか？」

MUR「くいてーなー」

TDKR「じゃけん、明日遠足いきましようね」

翌日

KMR「（先輩達、時間通りにくるのかな・・・）」

「不安に思いつつ、集合場所に到着するKMR」

MUR「おうKMRア！、時間ピッタリだな」

KMR「あつ、MURさん一番乗りですか」

MUR「遅刻するといけないからな、ここで寝てたんだゾ」

KMR「えっ」

「そんなこんなでTDKRが到着」

TDKR「おまたせ！」

MUR「おう」

KMR「皆揃いましたね、それじゃあ・・・」TDKR「ほらいくど〜！」

30分後

TDKR「ぬわああんつかれたもおおん」

KMR「そろそろお弁当にしましょうか」

MUR「いいゾ〜景色」

KMR「ところで、先輩達なに持ってきました？」

MUR「ポテチとビックリマンチョコとうまい棒（なつとう味）」

TDKR「家にビールしかなかったけど、ま、いいよね」

KMR「そうくると思って、僕がお弁当作ってきましたよ」

MUR「おつ、KMRえらいゾ、ビールは冷えてるか？」

TDKR「ばつちえ、クーラーボックスにいれてきましたよ」

MUR「2人とも気が利くな〜（ご満悦）」

帰りの道中

KMR「そうだ、MURさん、さっきのチョコからキラキラしたシールがでてきましたよ」

MUR「いいな〜それ」

KMR「僕には必要ないんで、MURさんどうぞ」

MUR「おっ、そうか〜？わるいな〜（ご満悦）」

MURは欲しかったシールを手に入れて終了

## 空手部 肝試しの巻

KMR「MURさん、最近、校門前に幽霊がでるらしいですよ」  
MUR「おっ、そうか」

KMR「後でTDKR先輩も誘っていきましょうよ」  
MUR「面白そうだし、いいゾ」

「そんな話をしていると、TDKRが登校してくる」

TDKR「ぬああん遅刻したもおおん」

KMR「先輩、おはようございます」

MUR「おう」

TDKR「なんか2人して楽しそうじゃーん」

KMR「今、肝試しの話してたんですよ」

MUR「そくだよ（便乗）」

KMR「先輩もいきましようよ」

TDKR「KMRから誘ってくるなんて珍しいな（ご満悦）」

KMR「じゃあ、22時に校門前に集合しましょう」

22:00 校門前

KMR「先輩達、遅いな」

「??」「おい」

KMR「先輩！遅いですよ・・・って、アレ？誰もいない・・・」

「??」「後ろだよ、オウ」

KMR「後ろ？・・・うわああああ！！（ブリュリブリュ！ビ

チュバチュ！）」

「スープリーを生産しながら逃走」

23:15 校門前

MUR「おや、誰もいないゾ？」

「??」「おい」

MUR「おっ、なんだなんだ？」

「??」「後ろだよ、オウ」

MUR「後ろ・・・？ポ、ポツチャマ（失神）」

10:00 野獣邸

TDKR「ファッ！？（起床）」

TDKRは寝すごしてしまい終了

## 保健室へ行くの巻

TDKR「デデドン！（ノック音）」

TRN「どうぞ（無関心）」

「保険室へ順番に入っていく」

MUR「今日のテスト全然わかんなかったゾ」

TDKR「KMRはいいよなー頭いいもんなー」

KMR「い、いやー、そんな事（照れ）」

「最後尾を歩いていたKMRが、なにか柔らかいものを踏みつけた」

KMR「ん？なんだろう・・・これは！、TRN先生！誰か倒れてますよ」

TRN「そう・・・（無関心）」

KMR「そう・・・、じゃないですよ！はやく救急車呼びなさいと」

MUR「（体）冷えてるか？」

TDKR「ばつちえ冷えてますよ」

MUR「おっ、そうか」

KMR「おっ、そうか、じゃないですよ！死んでるなら警察に連絡しないと」

MUR「おいKMRア！警察に連絡しろ（アドバイス）」

「その時、勢いよくドアが開いた」

「？？」「ガラガラッ、ガシャーン！（破壊）」

TDKR「ファッ!？」

「???」「なにやってんだお前ら？」

KMR「SNJ先生！人が死んでるんです」

TDKR「あ、MURさ、後で寿司食いにいかない？」

MUR「おっ、そうだな」

SNJ「俺も仲間にいれてくれよ」（マジキチスマイル）」

KMR「あああああああああああああああああああ」

K M R は精神が崩壊して終了



## 焼肉屋に行くの巻

チャイムくん「キーン！コーン！カーン！コーン！（迫真）」

学校屋上

MUR「腹減ったなあ」

TDKR「あ、MURさ、腹減ってるよね？」

MUR「おっ、よくわかったな」

TDKR「ですよね。近くの焼肉屋にうまいビールあるらしいんですけど、飲んでかない？」

MUR「おっ、いいゾ」

KMR「先輩！昼間からビールはマズいですよ」

TDKR「バレなきや、へーきへーき」

MUR「そうだよ（便乗）」

TDKR「じゃけん、KMRも連れていきましょうね」

焼肉屋

店員「いらっしやいませ（マジキチスマイル）」

TDKR「三人ね」

店員「こちらのお席へどうぞ（マジキチスマイル）」

TDKR「先輩なに食べます？」

MUR「ホルモン」

KMR「僕はタン塩で」

TDKR「どうすっかな〜おれもな〜（優柔不断）」

店員「ねねね〜、注文決まった？（マジキチスマイル）」

TDKR「ビール！ビール！」

MUR「タン塩と冷奴とホルモンとポツチャマ」

店員「すぐ持ってきます（マジキチスマイル）」

「???「やだ！小生焼けてるのじゃなきゃやだ！」

「???「誰がわがままいっていいつつたオラア!?生肉食べるんだよオラア!!」

「???「オエエ！ゲホツ！ゲホツ！オエエエ!!」

「???「その辺にしろといてやれよオラアアア」

「???「こいつが言う事きかないもんだからねえ〜?」

「???「おう、ならもっとやっつけていいぞ。はやくしろよ」

「???「やだ！ライダー助けて！」

「???「誰が店で大声出していいつつたよ!?（大声）」

TDKR「なんか隣がうるさいっすね」

MUR「そうだな」

KMR「家族連れなんですよ、きつと」

店員「お待ちどうさま！（マジキチスマイル）」

TDKR「ひゃー、うまそうー」

MUR「おい、KMRア！（唐突）、肉焼け」

KMR「わかりましたよ」

ジュー！ジュー！（迫真）

「食べ始める」

TDKR「アツ！アツ！アツツ！アツウエ！」

MUR「ホッ！ホア！ホアツ！アツ！」

KMR「二人ともゆっくり食べましょうよ」

TDKR「そんな事してたら冷めるだろ〜?」

MUR「ホア！アツツウ！ホッホッホッ！」

TDKR「あ！MURさん、それ俺が焼いてたんすよ」

MUR「おっ、そうか」

KMR「まあまあ、お肉ならまだまだありますからね」

TDKR「焼けたかな？焼けてないな（確認）」

KMR「そんなに頻繁に裏返しちゃダメですよ！」

「食事を終えて」

MUR「そろそろ、吐きそうだな」

TDKR「じゃ、かえろっか」

KMR「そうですね」

「お会計に向かう」

店員「お会計は114514円になります」

TDKR「あ、店員さ、さっき他の店員の股間チラチラ触ってただろ」

MUR「そっだよ（便乗）」

店員「なんの事でしょうか？」

MUR「（証拠の動画）見たけりや見せてやるよ（震え声）」

店員「お会計は結構ですよ（マジキチスマイル）」

MUR「おっ、そうか？悪いな」

TDKR「じゃけん、お言葉に甘えましょうね」

3人はタダで焼肉を食べて終了

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2157ba/>

---

空手部の日常

2012年1月5日23時49分発行